

V 新世紀の学校図書館メディア専門家の養成 調査結果

Carol L. Tilley, Daniel Callison

Tilley, Carol L.; Callison, Daniel.

Preparing School Library Media Specialists for the New Century: Result of Survey.

Journal of Education for Library and Information Science. Vol.42, No.3, 2001, p.220-227

図書館情報学 (LIS) 分野の米国図書館協会 (ALA) 認定プログラムの調査結果によれば、学校図書館メディア専門家をを目指す学生の多くは包括的な大学院レベルの教育のみによって養成されているように思われる。そのようなプログラムには教育界における有能な指導者、協力者、教師として活動できる情報専門家の育成を目指しているものが少なからずあり、カリキュラムでは青少年向け資料、レファレンスサービスなど伝統的な図書館司書の職務に関わる内容と並んで、技術や教育計画が重視されている。入学希望者（大学院における LIS 教育プログラム受講者中の比率は増加しつつある）に対しては MLS 課程と同様の条件と成績基準が適用されている。学校図書館メディア専門家が近い将来不足することは必至であり、州の認定基準が現在の最高水準の実践と一致しないことと並んで関係者の憂慮の種となっている。

背景

1996年にHaradaは、1980年代から1990年代初めにかけての時期は学校図書館メディア専門職の挑戦と成功の時代であったと述べた¹⁾。特に予算上の制約から全国的に公私の学校図書館が閉鎖され、いくつかの図書館学コースも閉講になった一方で、主要な職能団体と認定機関の協力によって専門家養成ガイドラインの整備が進んだことが指摘されている。

この論文が発表されてから4年の間に学校図書館界には更に大きな変動があった。予算の制約の一部は緩和され、図書館の閉鎖に代わって、専門教育を受けた学校図書館司書の全国的な不足が問題となり、特に学校図書館の報道で有名だったわけでもないU.S. News & World Report紙が半ページの記事²⁾を掲載したほどの話題となった。また情報技術の急速な進歩によって職務能力やサービス範囲の重点が変化し³⁾、印刷体資料の購入や維持が等閑視されるに至った⁴⁾。職能団体間の協力によって新しい基準が

1998年に発行され、17の州では学校図書館メディア専門職の認定・免許に実務試験が課せられるようになり、学校司書も標準化された試験の世界に入ることになった⁵⁾。

このような動きの背後には学校図書館メディア専門家（以下 SLMS）の教育プログラムが存在する。1990年代には SLMS としての証明が得られる学部レベルまたは大学院レベルの課程を開設している高等教育機関が全米で 200 校あった⁶⁾。それらの大部分は全米教員教育認定委員会 (NCATE) の認定を受けているが、ALA 認定を受けた MLS 課程も 40 件存在した。SLMS 養成課程の分割は新しいことではなく、過去 1 世紀にわたって図書館学教育の特徴をなしていたのであって、学校図書館と公共図書館の司書教育の異同をめぐる長年の論争もここに一因がある⁷⁾。

方法

学校図書館メディア関連職業の最近の進展が、そのような職業人の養成課程にどのように影響しているかを探るため、米国とカナダの ALA 認定プログラム 46 のすべてに対して電子メールでアンケート調査票を送付した。この調査は 1999 年秋に KALIPER プロジェクトの一環として行ったものである。得られた回答は 25 件 (45%) であった。46 機関の中には SLMS 課程を持たないものもあるので、この 25 件は同課程を持つ機関の半数強を占めるものとみられる。

調査票（付録 A）は KALIPER 研究の目的に沿いつつ Harada による 1993? 94 年の調査⁸⁾を補完するように設計されており、SLMS 養成課程に固有な問題 15 項目を取り上げている。うち 3 項目は選択式であるが、必要があれば詳細を記入することも認めている。残りの 12 項目は短文による質問で回答には特に制約はない。6 問はプログラムの構成（学科の目的、学位、入学条件など）に関するもの、5 問はカリキュラム（必修科目、新科目、履修者の多い選択科目など）に関するもの、2 問は学生（登録者数、就職状況など）に関するもの、別の 2 問は学科代表者に対して SMLS 教育の動向とその予測を問うものである。

所見

プログラムの構成

SLMS 課程の目的を尋ねた質問に対しては 20 件の回答があり、うち少なくとも 6 件（30%）は州または地域の認定基準への対応を明確に謳っていた。Information Power に示されている全国的指針への準拠も明示されている。たとえば 5 件（25%）がリーダーシップと協調性に、6 件（30%）が情報リテラシーに触れている⁹⁾。また 8 件（40%）は能力ある情報専門家の育成が必要であると述べており、またベストプラクティスを推

進し、思慮深い意思決定者かつ批判的思考者であるメディア専門化を育成したいとする回答も数件あった。

しかし、より大きなテーマと思われるのは技術であり、9件(45%)が何らかの形で触れている。それらの回答者の関係するプログラムでは、学習効果の向上と教育活動でのリーダーシップを目指して、情報技術の知識と技能を持つ専門家を育成することを目指している。実際、もし学科方針(mission statement)に意味があるとするれば、今日(そして明日)のメディア専門家にとって情報技術は読書力よりもなお中核的なものと見なされており、後者に触れているのは4件(20%)にすぎない。

SLMS 教育では協調性やリーダーシップを持つ教育者の養成に関心が向けられているにも関わらず、回答者の多くはプログラムが自己完結的なものであるとしている。「貴校の SLMS 課程に最もよくあてはまる項目を選んでください」という問いに対して、「すべての科目が自学科(または大学院)で開講されている独立の課程」を選択した回答者が12名(48%)、「独立であるが他学科の選択科目を含む」が5名(20%)、「必修に他学科の科目を含む共同プログラム」が4名(16%)であった。残りの4名は「その他」を選択したが詳細は記入していなかった。

NCATE のみの認証を受けている多くの SLMS 課程と異なって ALA プログラムは大学院レベルのみに開設されており、学部レベルの単位を提供しているとの回答は4名(16%)にとどまった。また SMLS 課程の学生に対する入学条件や成績基準が LIS の修士課程より低いと答えたのは1名(4%)のみであった。

この調査の対象となった課程は大学院教育が中心であるが、学生が学部レベルの修士課程取得に必要な一般教授法の科目を取ることにはできるようである。ALA 認証プログラムの受講者は多くの場合基礎的な教員養成課程の必修科目を履修しているため、学校図書館メディア以外の科目について教員資格を持っている者が少なくない。

SLMS 課程は主として K-12 の情報環境における職業人の養成を目指しているが、NCATE の正式認定を受けているのは 44%にすぎない。Harada によれば、1994 年に同率の大学が NCATE の審査に参加したか、参加の意思があると回答しており、また回答者の 85%以上が、NCATE が SLMS 課程に想定している9つの能力分野(運営、コレクション管理、組織、専門能力、制作管理、アクセス、教育におけるリーダーシップ、コミュニケーション、コレクションの利用)に対応するコースを NCATE の認証を受けているか否かに関わらず既に提供しているとしている。今回の調査で興味あることは、NCATE 認証に関心がない、あるいは認証の必要がないという回答が数件あったことである。もちろん NCATE 認証を受けるかどうかは任意であり、また対象校は既に ALA 認定を受けており、かつその1つは NCATE の特別会員であるから、NCATE

認証を余分なものに見なしても不思議はない¹⁰⁾。

最後に、LIS 教育で遠隔授業への関心が高まっているにも関わらず、14 校 (56%) は SLMS 課程をいかなる形の遠隔授業でも提供していない¹¹⁾。この数字は ALA 認定プログラムの 63%が遠隔授業を取り入れているのとは対照的である¹²⁾。一方では SLMS 終了証に必要なすべての課程を遠隔授業で提供しているとの回答が3件 (12%) あった。

カリキュラム：標準中核科目と新しい選択科目

大部分の SLMS プログラムは終了証明書を得るために 27 単位 (約 9 科目) の履修を要求している。この 27 単位はほとんどの場合、図書館情報学修士 (MLIS) にも共通しており、修士号を取得するためには更に 7? 18 単位の履修を要するのが普通である。修了証書に必要な教授法や学生教育などの教育関連科目は MLIS 学位にも LIS 内の学校図書館メディア専攻にも要求されない。

この 27 単位のうち平均 15 単位は特定の科目で取得しなければならないが、表 1 に示すように、今回の調査と Harada による 1993 年の調査とではそれら必修科目に変化が見られる。1993 年にも技術はトップに近かったが、今回は前回のトップであった青少年向け資料を抜いて第 1 位となっている。教育設計を要求しているケースも今回の方が多くなっている。インターネットと情報技術の存在が大きくなり、また Information Power の最新版で教育法の重要性が強調されていることを考えれば¹³⁾、この両者とも意外な結果ではない。レファレンスサービス、技術サービス、基礎科目など伝統的図書館学に属するコースについては、Harada の報告方法に問題があるため真に増加しているかどうか

表 1 学校図書館司書課程の平均必修科目数

には多少疑問が残る。	カテゴリー	Harada (n = 43)	Tilley & Callison (n = 25)
Harada の得た知見と	技術	1.30	1.64
同じく、今回の調査でも	青少年向け資料	1.49	1.48
SLMS 課程において最も	運営	1.05	1.08
多い推奨科目あるいは選	教育設計	.74	1.08
択科目は技術関連のもの	レファレンスサービス	.28	.68
である。しかし Harada	実習	.67	.64
が推奨科目の 39.2%を技術	基礎科目	.20	.52
関連としているのに対し	技術サービス	.12	.52
て、今回の調査では選択科	研究方法論	.02	.16
目の 52%が技術指向とな			

っている。これに関連して興味ある傾向は技術科目と教育設計との融合が見られることである。報告された科目名には「読解と技術の統合：21世紀のリテラシー」「学校におけるテクノロジー」「インターネットによる批判的教育実践」「評価とテクノロジー」といったものが見られる。技術と教育設計の融合を示す科目内容は、Information Power 最新版に見られるように¹⁴⁾、情報スキルのカリキュラム全体が強調される傾向に見合うものようである。

SLMS 課程の学生が最も興味を示すとされる新しい科目あるいはワークショップの主題のほとんども技術に関連したものであり、推奨科目・選択科目の場合と同じく、技術の当方、情報設計、情報評価などが強調されている。比較的多く見られる新科目を表2に掲げる。1995年以来、科目の内容や方向性に多少の変化が見られ、科目選択や授業の一般的基準が消滅したわけではないが、表3に示すように特殊化した専門学生を対象に特定の技術を教授する傾向がある。

学生

回答のあったプログラムにおいて、全登録学生のうち SLMS 課程を専攻する者の比率は平均約 26% (範囲 5? 50%) であっ

た。この数字は Harada の報告している 1994 年の数字と大差ない。すなわち同年にはプログラムの 54%に学校図書館司書職に関心を持つ学生がおり、その比率は 11? 25%であった。今回の調査に回答したプログラムのうち、学校図書館メディアに関心を持つ学生の比率が 1990 年以降増加したものは 80%、1995 年以降増加したものは 68%であった。

表2 1995 年以降の SLMS 志望者向けの代表的な新科目または内容

1.	情報リテラシー
2.	教師との協力
3.	マルチメディア設計
4.	ウェブデザイン
5.	ウェブ評価
6.	ウェブベース教育設計
7.	電子メディアの選択と利用
8.	メディアセンターの教育と評価
9.	学校図書館のオートメーション
10.	多文化的資源
11.	テクノロジーにおける倫理と法的問題
12.	対話型技術

表3 1995 年以降の SLMS 志望者向け科目の変化

減少

1.	視聴覚
2.	文学知識
3.	資料の選択
4.	個別技能の組み合わせ
5.	資料の整備
6.	一般的資料

増加

1.	マルチメディアおよび通信
2.	情報リテラシー、調査
3.	学習者ニーズの分析
4.	協力とカリキュラム統合
5.	学習者の能力
6.	利用者ニーズの多様化

これとはやや異なった観点からであるが、対象プログラムを履修した卒業生のうち、過去1年以内に SMLS として就職した者は約 20%であった。Harada の調査では調査対象プログラムの半数弱において 11? 25%の学生が学校図書館メディアセンターに就職しており、今回の結果はこれにほぼ符合する。今回の調査に回答したプログラムのうち、SLMS としての就職者数が 1990 年以降増加したものは 35%、1995 年以降増加したものは 44%であった。

動向と問題点

1990 年以降の SLMS 教育の動向と問題点としては、回答者の 52%が挙げた技術関連の問題がトップに来る。SMLS に対して技術的スキルは選択から必修へと移りつつあり、SLMS には、技術的専門職（メディアプログラムの管理や学生の学習経験に技術を組み込む能力を持つ）と技能者とのバランスを取らせることが重要であると指摘されている。また SLMS 養成に当たる教育者にとっては、新しい技術（遠隔授業、インターネットなど）を教育活動に取り込み、バランスを取ることも重要である。

SLMS のリーダー的役割が強調されるようになったことも重要な傾向として指摘されている。たとえば SLMS が情報リテラシーの向上や学習機会の拡大に指導的な役割を果たせるようにするとの回答が 36%に達している。さらに回答者の 20%は指導的地位を目指す学生を集めて情報リテラシー教育を施すことが必要と考え、また同じく 20%が有能な意思決定者・問題解決者たるべき人材を集めることが必要と答えている。Information Power の 2 つの文書¹⁵⁾ に述べられている SLMS の役割に加えて、説明責任が強調されるようになってきたことが、この職業の強力な擁護者となるべき人材を引きつけるプログラムの必要性を高めたことは確かである。

SLMS 修了証書保持者の不足については解答の約 1/3 が懸念を表明していた。筆者の一人は既存のデータに基づいて、2010 年までに 25,000 人の SLMS の増加が必要であると予測した¹⁶⁾。これに加えて同じ期間に 100 万人の教師不足が予想されており¹⁷⁾、これらの数字は過去 6 年間に専門を問わず何らかの ALA 認定プログラムを修了した者の総数を上回っている。SLMS に限らず、この分野の博士課程の学生や教員候補者も不足している。

結論

ALA 認定を受けた SLMS 養成プログラムへの登録学生数や SLMS の就職数が増加しているとはいえ、SLMS の不足が予想されるが、今回の調査への回答が示しているように、誰彼なく登録者を増やすことは適切な解決策ではない。将来の SLMS が直

面する問題を考えれば、K-12 の教育プログラムの中で学校図書館メディアを有効活用する方法を知り、かつビジョンを持った擁護者たり得る学生を集めることが必須である。

SLMS 教育においても伝統的な分野が依然として多く取り扱われているが、技術、教育設計、専門的情報サービスなどが目立ち始めている。コンピュータやネットワークの基礎知識はもちろん必須であるが、それらをメディアセンターの運営や情報スキル教育にどのように活用するかがますます重要になっている。同様に、児童向け資料に関する科目も SLMS 教育で依然として中心的な地位を占めているが、多文化的資源に重点を置く科目の重要性も認識され始めている。

ALA 認定を受けた SLMS 課程にとって、州の基準を満たすこと(必ずしも NCATE の認定を受けなくてもよい)は至上命令である。しかし SLMS としての採用に Praxis 試験その他の能力証明を要求する州が増えており、SLMS 教育課程はこれに対応しなければならない。回答者はこの必要性も理解しており、さらに州の基準が今日の SLMS のニーズから外れているとの指摘も多かった。こうした変化が養成プログラムに最終的にどのような影響を及ぼすかはまだ明らかではない。

文献

1. Violet Harada, "School Library Media Preparation Programs in ALA Accredited Schools," *Journal of Education for Library and Information Science* 37, no.3(1996):210-28.
2. Mary Lord, "Where Have All the Librarians Gone?" *U.S. News & World Report*(June 12, 2000):53.
3. Marilyn L. Miller and Marilyn L. Shontz, "Plug It In: The Wired School Library," *School Library Journal* 44 (Oct. 1998):26-31.
4. Kathleen Kennedy Manzo, "Era of Neglect in Evidence at Libraries," *Education Week*(Dec.1, 1999):1, 12-13.
5. Patsy H. Perritt, "Getting Certified in 50 States," *School Library Journal* 45(June 2000):50-73.
6. Marilyn L. Shontz. "Institutions for Professional Education," in *School Library Media Annual*, ed., Carol Collier Kuhlthau (Englewood, Colo.: Libraries Unlimited, 1993): 217-35.
7. June Lester and Kathy Latrobe, "The Education of School Librarians," in *The Emerging School Library Media Center*, ed., Kathy Howard Latrobe (Englewood, Colo.: Libraries Unlimited, 1998): 1-16.

8. Harada, "School Library Media Preparation Programs in ALA Accredited Schools."
9. American Association for School Librarians (AASL) and Association for Educational Communications and Technology (AECT), Information Power: Guidelines for School Library Media Programs (Chicago: ALA, 1988); American Association for School Librarians (AASL) and Association for Educational Communications and Technology (AECT), Information Power: Building Partnerships for Learning (Chicago: ALA, 1998).
10. Lester and Latrobe, "The Education of School Librarians."
11. KALIPER Advisory Committee, Educating Library and Information Science Professionals for a New Century: The KALIPER Report, Executive Summary (Reston, VA.: ALISE, July 2000).
12. American Library Association, "Accredited LIS Master's Programs," www.ala.org/alaorg/oa/usliss98.html. Accessed August 1, 2000.
13. AASL and AECT, Information Power: Building Partnerships for Learning.
14. Ibid.
15. AASL and AECT, Information Power: Building Partnerships for Learning and Information Power: Guidelines for School Library Media Programs.
16. U.S. Department of Education. National Center for Education Statistics (NCES), Projections of Education Statistics to 2006. NCES 96-661 (Washington, D.C.:NCES, 1996); U.S. Department Education, National Center for Education Statistics (NCES), Projections of School Library Media Centers: 1993-1994, NCES 98-282. (Washington, D.C.: NCES, 1998).
17. Barbara Kantrowitz and Pat Wingert, "Teachers Wanted," Newsweek (Oct.2, 2000): 36.

付録1 調査票

回答者名：

大学/学部名：

1999年度修士レベル登録学生担当正教員概数：

貴学科の学校図書館メディア専門課程と必修科目の説明の Web アドレスを列挙して

ください。

1. 貴学科の学校図書館メディア専門家養成プログラムの理念を 30? 50 語で述べてください。
2. 貴学科の学校図書館メディア専門家養成プログラムで取得できる学位の範囲を述べてください(学部のみ、学部および大学院、大学院のみ、その他)
3. 貴プログラムは学校図書館メディア専門家に関する下記の要求条件を満たしていますか(各項目ごとに yes, no で答えてください)。
 - a. NCATE
 - b. 州教育省
 - c. その他
4. 貴プログラムの学生のうち学校図書館メディア専門家の資格を取得しようとしている者の現在の比率を概略答えてください(0? 100%)。
その比率は 1990 年に比べて増加していますか(yes, no, 不変)。
その比率は 1995 年に比べて増加していますか(yes, no, 不変)。
5. 貴プログラム修了者で 1999 年に学校図書館メディア専門家として就職した者の概数を答えてください。
その数は 1995 年に比べて増、減、不変のいずれですか。
その数は 1990 年に比べて増、減、不変のいずれですか。
6. 貴プログラムで、学校図書館メディア専攻学生向けに 1995 年以降新たに開設された科目またはワークショップにはどのようなものがありますか。また 1995 年以降の標準的な学校図書館メディア専攻課程に生じた代表的な変化は何でしょうか。
7. 下記のうち貴プログラムに最もよくあてはまる陳述はどれですか。
 - a. すべての科目を自学科(または大学院)で開講する独立の課程
 - b. 他学科(または大学院)の開講する選択科目を多少含む独立の課程
 - c. 必修科目の一部を他学科(または大学院)が開講する共同課程
 - d. その他
8. 貴プログラムで学校図書館メディアを専攻する学生の必修科目を挙げてください。
9. 貴プログラムで学校図書館メディアを専攻する学生が多く履修する選択科目を挙げてください。
10. 教員と諸資源を自由に使えるとしたら、貴学科の学校図書館メディア専門家教育を強化するために追加したいと思われる科目を挙げてください。
11. 貴プログラムで特に学校図書館メディア専攻学生向けに遠隔授業を行なっている

科目を挙げてください。それら遠隔授業の単位は学校図書館メディア専攻学生に要求される単位数の何%を占めていますか。

12. 下記のうち貴学科に最もよくあてはまる陳述はどれですか。

- a. 修了証書を授与する専門課程の入学条件は修士課程と同一
- b. 学校図書館メディア専門課程の入学条件は修士課程とは異なる（どのように？）
- c. その他

13. 下記のうち貴学科に最もよくあてはまる陳述はどれですか。

- a. 学校図書館メディア専攻学生に要求される成績標準は修士課程の学生と同一
- b. 学校図書館メディア専攻学生に要求される成績標準は修士課程の学生とは異なる（どのように？）
- c. その他

14. 学校図書館メディア専門家の養成において現在重要と考えられる問題点を 30? 50 語で記述または列挙してください。

15. 学校図書館メディア専門家の養成の現状が 1990 年当時とどのように異なっているかを 30? 50 語で説明してください。

著者紹介

Carol L. Tilley : インディアナ大学ブルーミントン校博士課程学生・非常勤講師

Daniel Callison : 同校准教授